

FJC 協会主催「足こぎ車いす・六輪車いす」体験見学会(2012/8/25) レポート

8月25日、成城ホールで開催されたFJC協会主催の「足こぎ車いす・六輪車いす」体験見学会に参加しましたので報告させていただきます。福井塾からは田島さん、中野さんも参加されていました。見学会の講師は福井先生のほか、足こぎ車いす「Profhand」販売代理店(株)UPSETの田名部氏です。

見学会の半分は車いすのシーティングの講義と体験で、福祉用具販売員の方などの参加者はシーティングをここまで詳細に学習したのは初めてと感動されていました。FJC実践塾ではクッションを中心としたシーティングを学習しましたが、今回は車いすのベルトによるシーティングです。

以下、簡単に概要を記します。

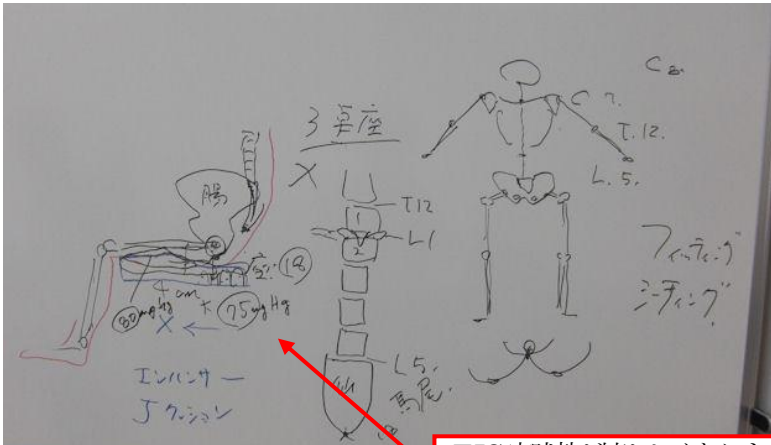


1. 車いすのシーティング

“移動するだけの車いすは疲れる”が“座ってられる車いすは元気になる”とのことで、私たち福井塾生にはおなじみの人間の骨格・体圧から…講義が始まり、車いすのシーティングをベルトで調整する方法を学習しました。

- ① バックレスト(背もたれ)の4本のベルトの締め付け調整
- ② シート(座面)の4本のベルトの締め付け調整とクッションの配置
- ③ アームレスト、フットレストの調整

FJC実践塾では3点座りとしてPSISと大転子を意識しましたが今回はちょっと違っていました。



FJC実践室が濃くありませんか？
骨格、体圧を考慮したシーティングの原理、お尻と太股の高低差4cm。



立位の状態では不動点を探ってみる。



バックレストの4本のベルトを締め付け調整する。

バックレストの4本のベルトの締め付け調整

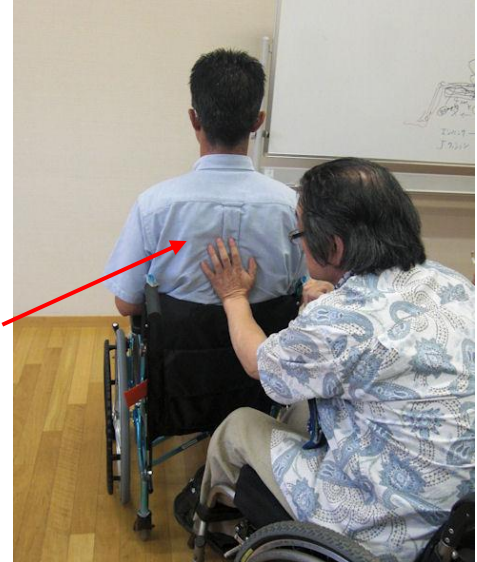
- ①バックレストの4本のベルト全てを緩める。
- ②手(人差指・中指を折り曲げ)で背骨を移動させながら押して上体の不動点を探す。
- ③不動点位置のベルトを目一杯締め付ける(不動点がベルトとベルトの間の場合はベルトをたすきに掛ける)。
- ④背中の肩胛骨付近に手の平を添えて上体を支え、胸を開いた気持ちが良い位置(上体の傾き)を探る。
- ⑤その位置に合わせてほかのベルトを全て締める。



手で背骨を移動させながら上体の不動点位置を探り、その位置のベルトを目一杯締め付ける。

不動点がベルトとベルトの間の場合はベルトをたすきに掛ける。

背中の肩胛骨付近に手の平を添えて上体を支え、胸を開いた気持ちが良い位置(上体の傾き)を探る。その位置に合わせてほかのベルトを全て締める。





アームレストの調整

腕を胸に組み、アームレストの高さを合わせる。



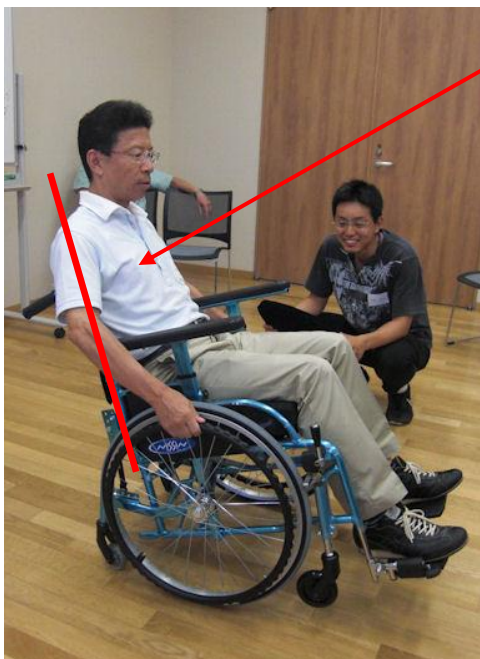
座面の調整

フラットタイプのクッションを使用する場合には車いす座面4本のベルトで高さ調整をする。座面後ろのお尻に当たる2本のベルトを3cm下げる(座って4cm下がることを想定)。ずっとこけ座りにならない動かない状態をつくる。

2. 六輪車いす

六輪車いすは、室内の有効幅が狭い廊下や出入口の敷居の段差の問題を解決するために開発されたそうです。後輪キャスターを設けることにより駆動輪位置が通常の車いすより前方に移動(回転軸が身体を中心に近い位置にある)しています。そのため、押す力が弱い日本人には通常の車いすに比べ扱いやすいとのこと。また、旋回時の中心が車軸の部分であるため、旋回が軽く、その場回転ができます。

六輪車いすは体を後方に倒すことができ、(重心を後方にした方が)移動が楽なようです。



体を後方に倒した状態(重心が後方)。六輪車いすはショックアブソーバー付きの後輪キャスターにより転倒しない。

駆動輪の車軸を上下に移動することにより座面高さも調整できる。



3. 足こぎ車いす「Profhand」

足こぎ車いすは、今春のNHKの特集番組で紹介されて以来、麻痺側の足の力を呼び戻すリハビリ効果が期待できるとして一躍注目を浴びています。

思っていたより小型で店舗に入っても大きな障害にはならないように思いました。バックレスト(背もたれ)を後方に倒した状態で座る(重心が後方)ことにより楽にこげ、通常の車いすよりスピードが出ます。また操作性もよくエレベータ内での旋回もできそうです。乗るとゲーム性もあり楽しいので意欲が沸きそう。

ただ、課題として次のことが挙げられました。

①移乗にやや難

足下にあるペダルが移乗の邪魔になる。片側のアームレストを上げた横からの移乗に限られそう。

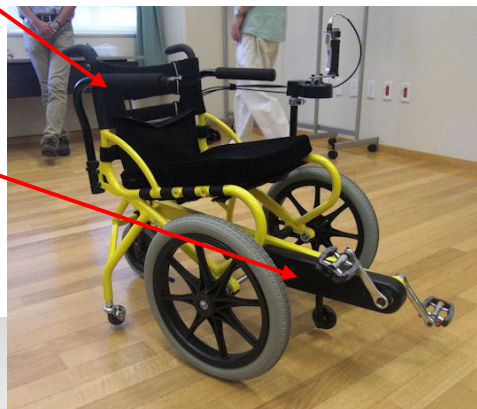
②操作レバーの位置に難

レバーが車いすの外に出ているので狭い場所ではぶつかる可能性がある。また、体がレバー側に倒れるので操作性も考えると体の中心近くにある方がよい。

通常的車いすと比べバックレスト(背もたれ)が後方に倒れている。

自転車と同じペダル。健常側の足でこぎ、麻痺側の足をリハビリする。

重心が後方にあることにより楽にこげる。



レバー操作で後輪の向きが変わり進む方向が決まる。また、後輪にはディスクブレーキが組み込まれている。

健常側の手で操作するレバーがあり、ブレーキ、パーキングブレーキ(ロックピンによりブレーキを固定)、ハンドル(進む方向を変える)操作ができる。



5期生 多賀 章